

学校経営の振り返り(学校自己評価)

4月号に掲載しました「令和4年度の学校経営方針」について、この1年間学校が大事にしてきたことを振り返りながら、11月下旬に実施したアンケート結果を交え、現在の状況をお伝えします。

1. めざした子ども像について

「考えを伝え合い、課題解決のために協働できる子ども」

このために、「(子ども同士の)対話のある授業」と「子どもに任せる」の2つを教職員間の合言葉として教育活動を行ってきました。「対話のある授業」の取組は、低学年と高学年で対話の形(※ペアでだったり、グループでだったり、学級全体でだったり)も時間も違いますが、学びを深めるために取り組んできました。「子どもに任せる」取組は、子どもが考え行動する場を充実させるため、学級活動や児童会活動に力を入れました。

アンケートによると、88%の子どもが「対話のある学び方をして勉強がわかる・考えが深まる」と答えてくれました。また、90%の保護者に「学校は対話のある授業づくりに努めている」と、93%の保護者に「学校は子どもたちが課題解決のために協働する授業づくりに努めている」と肯定していただきました。

本校の子どもたちは、落ち着いた学校生活を送ることができています。しかし、仲良しに見えるのに人間関係は希薄なように感じます。自己主張することが弱かったり、苦手だったりする傾向があります。(これは、大人も含めて現代の風潮かもしれないのですが。)本年度、子ども同士がかかわる機会を増やしたことで、着実に子どもの雰囲気が変わってきたと感じています。「学力」をつけることは大事ですが、さらに人との関わりを通して「生きる力」をつけることも大事にして、今後も取り組んでいきたいと思えます。

2. 課題としていたことについて

(1) 子どもの授業への満足度の高さが学力に結びつくように、授業の質と家庭学習の質について検討すること。

授業の質については、子ども同士の対話がある授業にする以外に、子どもが学習のめあてをわかって授業に臨み、今日の学習でわかったこと・できるようになったことを振り返って授業を終えるようにしました。そのことによって、何を学んだのか理解が深まり定着するからです。そして、これらのことを実施できているか確かめたり、互いに研鑽したりするため、全教員がお互いの授業を見合って研修してきました。

アンケートでは、90%の保護者に「学校は、学習のめあてや課題を工夫し、最後に学習を振り返る時間を持つなど、よくわかる授業づくりに努めている」と肯定していただきました。

しかし、学校としては、まだまだ取組が日常になるまで到達していませんので、継続していきます。児童の満足度の質を高め、学力に結び付けていきたいと考えます。

家庭学習の質については、子どもに学年に応じた学習時間を守れているかを意識づけるため、学習内容や時間を記入する欄を設けた「学校独自の予定帳」を作成して、2学期から記録するようにしました。学年に応じた学習時間のうち、宿題をして残った時間は、読書や自主学習をするように指導しました。

3～6年生へのアンケートでは、「学年ごとに決まった時間(※学年×15分)、家庭学習をしている」児童は86%、「自主学習をしている」児童は75%でした。子どもによっては宿題をするだけで十分時間がかかってしまうのかもしれませんが、低学年から家庭での読書を推進しつつ、3年生以上は自律的に学習する力をつけるため自主学習に取り組ませています。各担任は、予定帳をチェックして子どもへアドバイスをしています。今後も継続していきます。

(2) 自己肯定感が高く、人の役に立ちたい・挑戦したい気持ちを持つ子どもが、堂々と自分の意見を述べ、積極的に行動できるように、教職員が指示待ちにしないか見直すこと。

これは、学校運営協議会で共有した「願う子どもの姿」の一つ、「自分の思いや意見をしっかりと話せる」と重なるものです。

子ども同士の対話が日常にある授業によって、自分の意見を堂々と述べる力をつけるように取り組んできました。また、学級活動や児童会活動で、児童が考え行動することができる機会を充実させて、子どもに任せていくように取り組んできました。

アンケートでは、「自分の思いや意見をしっかりと話せる」ことについて、83%の保護者に肯定していただきました。また、3～6年生は84%が肯定していましたが、1・2年生は64%でした。1・2年生には、ちゃんと意思表示ができていること、話せていることを褒めて、自覚させてあげることが大切だと思いました。それで、アンケート後は、そのことを一層大切にしてきました。さらに、他者と違うことを恐れ同調してしまう傾向があるので、低学年のうちに「人と違って当たり前だから、自分の思いや考えをそのまま出せばいい」という姿勢を身に付けてほしいと取り組んでもいます。3～6年生については、「しっかりと話せる」とは「相手の思いや考えを踏まえて話せる」というレベルにまで高めていきます。

(3) 保護者や地域との連携を深め、それぞれの役割を明確にして、子どもの成長に寄与すること。

この1年間、学校運営協議会・学校保健委員会や、PTA 活動・地域行事(敬老会、地区運動会、地区防災訓練)への協力を大切にしてきました。

地域行事は、新型コロナウイルス感染症のため、地区防災訓練以外は今年も中止となりました。地区防災訓練は、災害時に手を差し伸べてもらう立場である高齢の参加者が多いとい

う課題がありましたので、若い世代の参加を促そうと、中学校は大里地区の生徒への周知、小学校は親子での参加を呼び掛ける協力をしました。教職員も参加し、子どもを中心に、地域との交流を図りました。

アンケートでは、90%の保護者に「学校は地域・保護者と連携している」と肯定していただきました。令和5年度は、久しぶりに敬老会や地区運動会も再開されると思われます。他にも、コスモスマつりなど、子どもが参加する地域の行事について学校は把握できておりませんので、ぜひ教えてください。教職員が出かけて行って、子どもを中心にした地域との交流を図りたいと考えています。

学校運営協議会は、年3回開催しました。学校・地域・保護者の3者が願う子どもの姿を共有してスタートしました。委員には、月1回の学校公開日に合わせて、授業や行事を参観していただきました。

学校保健委員会は、PTA役員・学校三師(学校医、学校歯科医、学校薬剤師)・学校側担当で、2月に開催しました。ゲーム等による生活習慣の乱れが健康に影響していることが話題になりましたので、本年度中に子どもの実態調査を実施し、来年度は保護者と課題を共有した上で、連携した取組をしたいと計画しています。

(4)チームとしてのまとまりを作ることで、教職員のつながりをはっきりさせること。教職員の時間外勤務時間を減らすこと。

本校は学校規模から教職員が少ないため、一人ひとりが複数の仕事を担わなくてはなりません。だからといって「みんな忙しいから、それぞれで考えてやりましょう。」ではなく、孤立しないように、教育活動の改善を進められるように、チームで対応するように取り組みました。自分一人ですると気づかないミスがあるものですが、自分が主になってすとしても、もう一人にサポートしてもらうことでミスが減り、会議の中で修正する時間、練り直す時間が減ります。さらに、アイデアが増え、子どものためにと考えることが楽しくなります。

教員の時間外勤務時間の上限は月45時間と、文科省より指針が出ています。これを超える教員はなくなりましたが、忙しい月は30時間を超える教員がいます。子どもにとって担任の先生はスーパーマンです。我々教員も子どもの前で胸を張ります。ですが、世の中で子どもに関する課題が様々取り上げられるたび、それがそのまま学校へと持ち込まれてしまう現状では、仕事は減りません。教職員の定数を決めている法律が変わり、教職員が大幅に増えることを期待しているのですが望み薄です。

PTAや学校運営協議会を通じて、保護者・地域の皆様のご協力を得られていることは大変ありがたいことです。今後もよろしく願いいたします。

学校運営協議会にて

2月9日、第3回学校運営協議会にて、上記の学校経営の振り返りを説明し、委員の皆様

からご意見をいただきましたので紹介します。

●青少年育成協議会は、「子どもの安全を守る」「地域の環境を改善する」、そのための活動として危険箇所の注意を促す看板等の点検や通学路の草刈りをしてきた。PTAも各地区の足形マークや看板を点検している。そこで、関係者一緒に、学期に1回くらい点検できるとよいのではないか。

➡来年度PTAで考えてもらいます。関係者が一緒に動いている姿を見て、各自治会などでも気にかけてもらえるかもしれません。

●PTAでは、交通安全のための旗当番について、当番表がきっちり決められていると自主的な動きが取りにくいので工夫したい。しかも旗等のグッズは学校に置いてあり、いちいち取りに学校へ来なければならないので、各地区の集会所(の外)に置かせてもらえるように進めている。

➡子どももそうですが、大人も自主的に動いているという感覚を持てることが大事なことだと思います。

●新型コロナウイルス感染症のため地域行事ができていないが、そこで子どもを育てる一翼を担える。学校に子どもが参加する地域行事は知らせていこう。協力していける。

➡教職員分担して、地域交流に行く構えは毎年持っています。教えてください。

●文章を書く力、思考力も鍛えられるので読書は大事である。家庭で読書をする子が少ない実態がわかったが、何か具体的手立てを工夫して進めないと、来年度も変化が期待できない。

➡学校としては、現在取り組んでいることを、具体的にもう一歩前進させます。

●広くPTA会員に学校運営協議会のことを知ってもらいたい。

➡PTA広報誌「あしなみ」3月号で、学校運営協議会の紹介記事が掲載されます。

たまに見てください、学校ホームページ

学校ホームページを見ると、簡単な記事ですが、お子さんの学年や他の学年の活動について知ることができます。ご覧ください。

ところで、みなさん、節分の日に恵方巻を召し上がりましたか？この関西の慣習は今、全国に広がっていますが、私は結婚するまで知りませんでした。その時、大阪府民である連れ合いによって、この文化はもたらされました。最初だけは疑問を表明したと思います。自分の思いや意見をしっかり話していたんですね。でも、事情により、その力をあえて封印することが人生においてはあります。